

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成23年度終了評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
IMT-Advancedの無線インターフェイス技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H21-H23	<ul style="list-style-type: none"> ・IMT-Advancedの標準化は我が国がそれなりにリードしてきた経緯と実績がある。これが途切れないように、WRC-15の新議題にもなった3.6～4.2GHz帯の新周波数対応を含めて新たな連絡調整事務活動として継続してもらいたい。 ・無線の国際標準化で最も重要であり、我が国の成長産業でもある携帯電話システムの利権確保の上も重要なITU-Rの活動に関して、必要な活動を効率的に行ったと判断される。 ・ITU-R,APT,WRC-12,RA-12などの国際標準化の会合に出席し、日本提案のAPTレポートが作成されるなど、一定レベルの指導的役割を果たしている。外国寄与文書の分析や、アジア諸国との連携にも留意し活動を行った。 	4.8
700MHz帯等を用いた移動通信技術等の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H21-H23	<ul style="list-style-type: none"> ・700MHz帯での車車間、路車間通信技術、79GHz帯でのレーダ技術などITS無線システム技術についての国際標準化活動のための連絡調整事務は目標をほぼ達成したと考えられる。 ・WRC-12で77.5～78GHzに関する新議題が承認されるなど、ITSに関する貢献と仲間作りの成果が表れており、これが途切れないよう、新たな連絡調整事務活動を起こして、継続して頂きたい。 ・ITSという共通のアプリケーションではあるが、700MHz帯と79GHz帯では背景となる技術環境が大きく異なり、有機的連携を持った活動が難しかったと推察されるが、標準化提案書の作成、技術調査などが適切に行われた。 	4.4
海上移動業務VHF帯データ通信方式の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H21-H23	<ul style="list-style-type: none"> ・技術基準への反映、策定を含めて、全体的に目標の達成度は良好である。 ・VHF帯データ通信帯域に関し、WRC-12への提案が特定できたことやAPT共同提案に反映させたことは大きな成果である。 ・海上移動業務VHF帯データ通信方式について、世界に先駆けて日本からITU-R WP5Bへの寄与文書を提出してデータ通信プロトコル開発の必要性が各国に認識されたことは評価できる。 	4.1